

Declaration in need of Certified Medical Physicists in Japan

日本に公認医学物理士を要することの声明

Volunteers from Participants of the 21st International Symposium

第21回国際がん研究シンポジウム参加者有志

2008年2月19日から21日までの間、東京国立がんセンター内国際研究交流会館・国際会議場において「最近の放射線腫瘍学：技術の進歩と臨床導入への研究」と題する国際シンポジウムが開催された。その全討論を通じて、新しい放射線治療関連の技術的・生物学的知見が確認されるとともに、シンポジウム参加者の多くの国の放射線治療の状況が比較された。その結果、以下を宣言することの合意を得るに至った。

シンポジウム参加者は、放射線治療が関連技術の進歩とともに、将来の技術の進歩を図るためには、医学物理士の存在が最重要で、その必要性は緊要かつ緊急だとの認識で一致した。日本を除いた先進諸国は放射線治療分野で医学物理士を急速に増やす計画を策定している。

われわれは日本政府関係者に対して (i) 医学物理士を公的資格にする、(ii) 認可医学物理士に対して施設（病院）がポストを用意するよう促す、(iii) その他施設（病院）が将来に亘って医学物理士の養成・確保のため必要な手段を講じるよう考慮すべきことを宣言する。

またわれわれは日本のがん治療・放射線治療に関連した医学会および関係団体に対して、日本の放射線腫瘍学の有望な将来を保証する医学物理士に対して、修練と昇進の場を設けるべきことをここに宣言する。

2008年2月21日

シンポジウム参加者有志